



新增

補西

國

奇談

春水

綴

芳虎  
圖

十九編



上



下



西國奇談

孟齋先生畫

為永春水作

亀螺神

下編廿

廿編上

門 13  
號 3696  
卷 7

西國

奇談

千編上

水作

芽席画

青盛

文庫



精

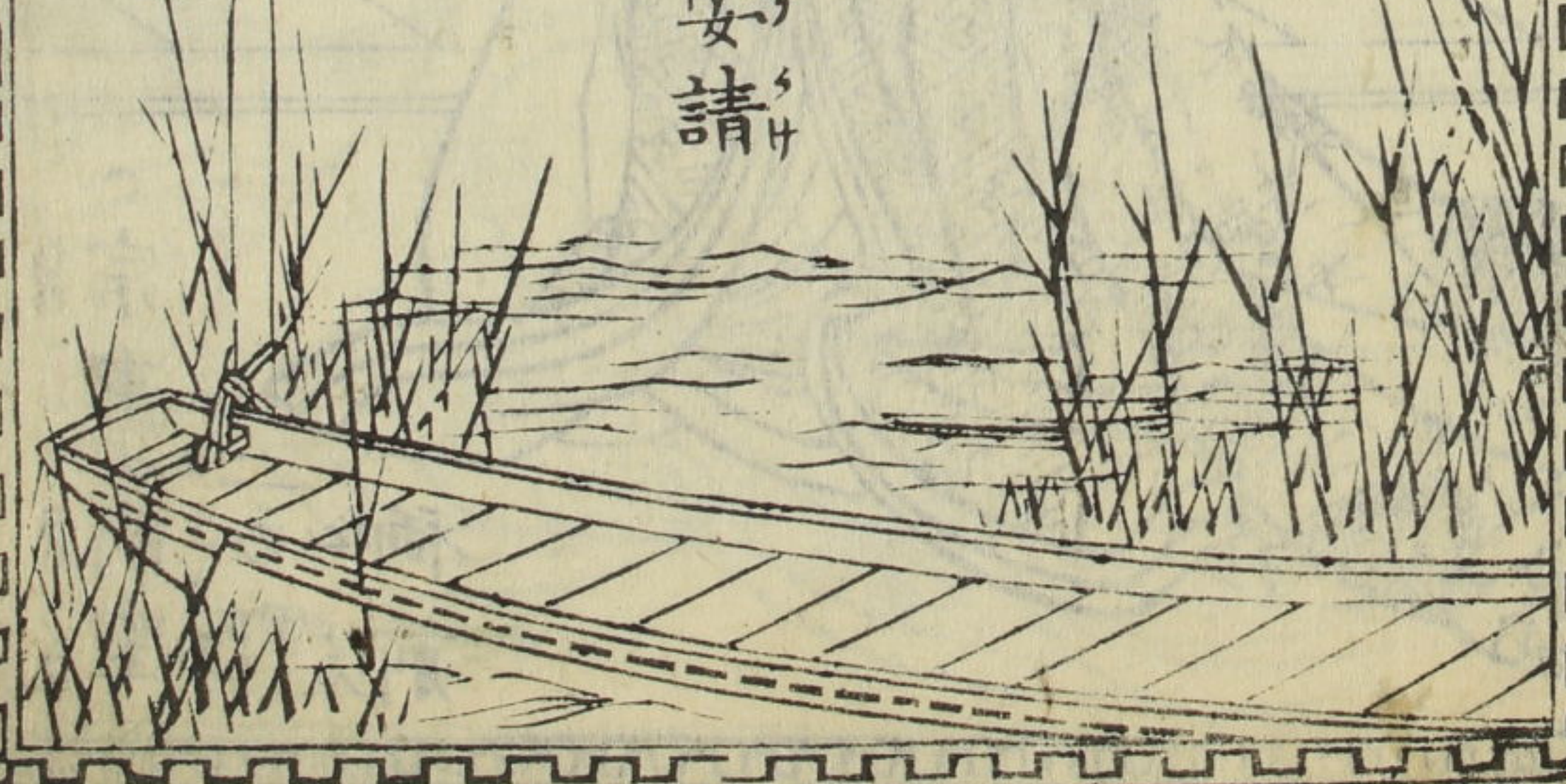
一



自われと省すくるふを  
 幾許いくさとかぞくききと色ぬぬ歳としは  
 豆まめのた數かず五いつ十じゅうをとりては  
 暇ひまのち稀まれちちねねに甲のの後のち輯しゅう乙おつのの次つぎ編へんと爰  
 彼か處こゝに書肆しりり何なに様さまと吳るるのの催まよ促まと安請しん  
 合あ二に年ねん越こ緝しつ屋やのの明あ後ご日にち言い尽つりたるる  
 詮せん方かたたらしり、義理り一いつ編へんをりと  
 什なにももと責と塞ぎら

辛未  
孟春

為永春水誌



五國奇譚十九



勇水見侍



宗重の内室  
二の町  
御前











# 酒魚壹駄 嶽大壹圓

カタシテ  
カタシノ  
カタシノ  
カタシノ  
カタシノ  
カタシノ



○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ  
○カタシノカタシ

カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ

カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ



カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ  
カタシノカタシ



【一】この日の下り... ちやうと... ちやうと... ちやうと... ちやうと...



【二】... 現金... 現金... 現金... 現金... 現金... 現金...



【三】... ちやうと... ちやうと... ちやうと... ちやうと...

【四】... ちやうと... ちやうと... ちやうと... ちやうと...





三の巻... 西國奇譚十九... 三の巻... 西國奇譚十九...

芳虎画春水作



三の巻... 西國奇譚十九... 三の巻... 西國奇譚十九...

三の巻... 西國奇譚十九... 三の巻... 西國奇譚十九...



三の巻... 西國奇譚十九... 三の巻... 西國奇譚十九...



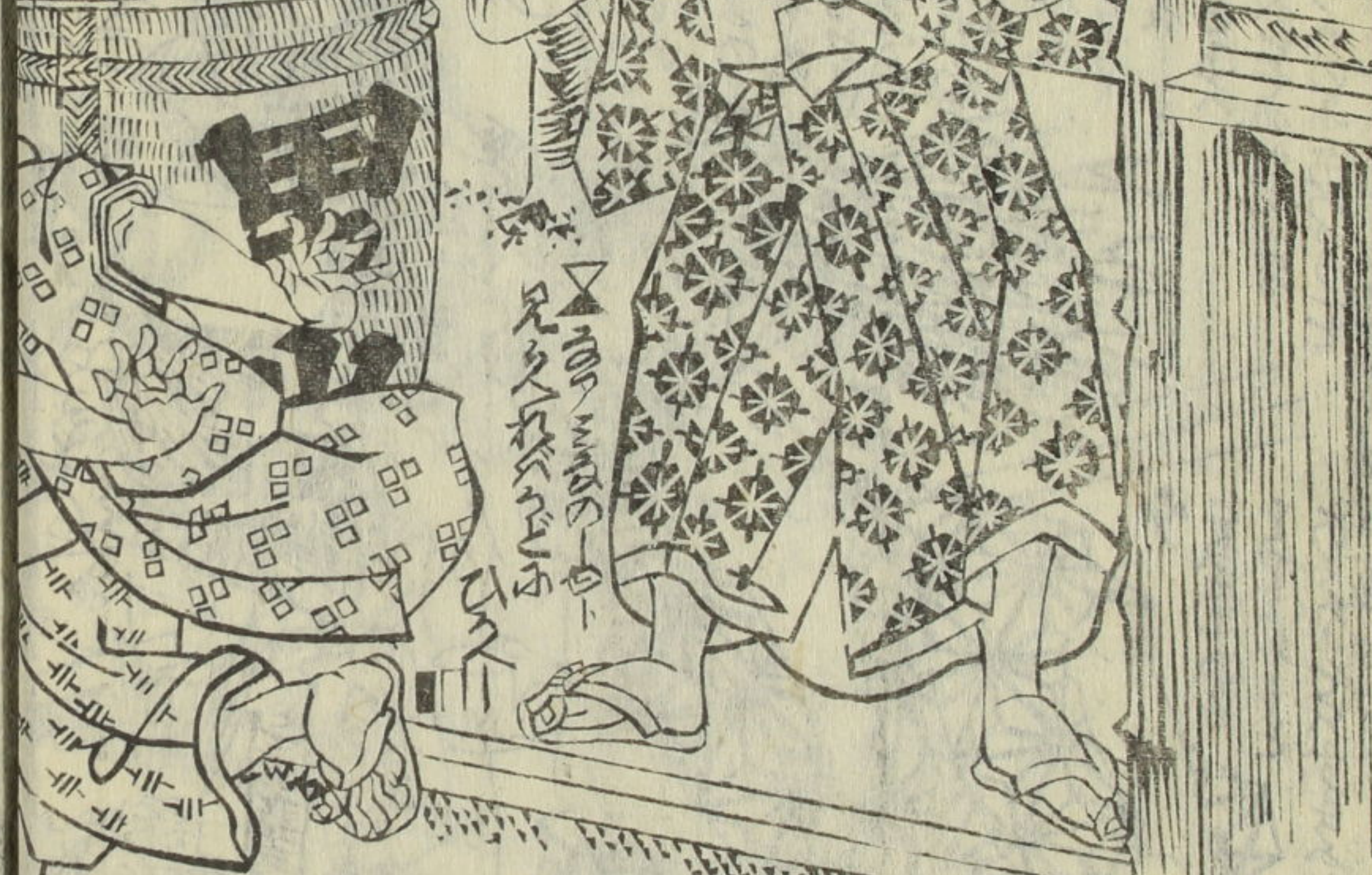






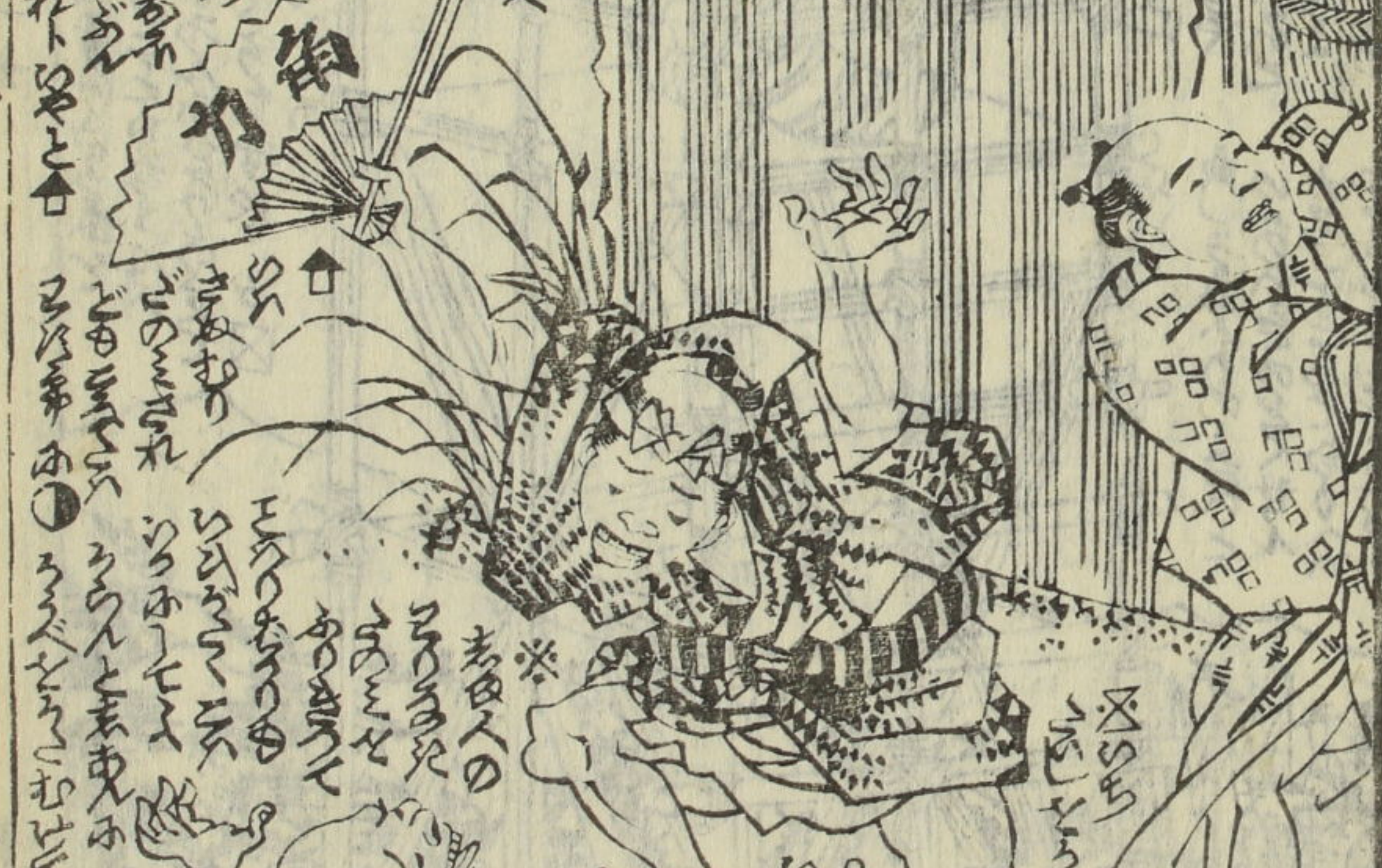


此物乃由西國所出  
 其味清香且能開胃  
 凡有病者服之立見  
 功效誠為補品中之  
 冠也  
 此物乃由西國所出  
 其味清香且能開胃  
 凡有病者服之立見  
 功效誠為補品中之  
 冠也

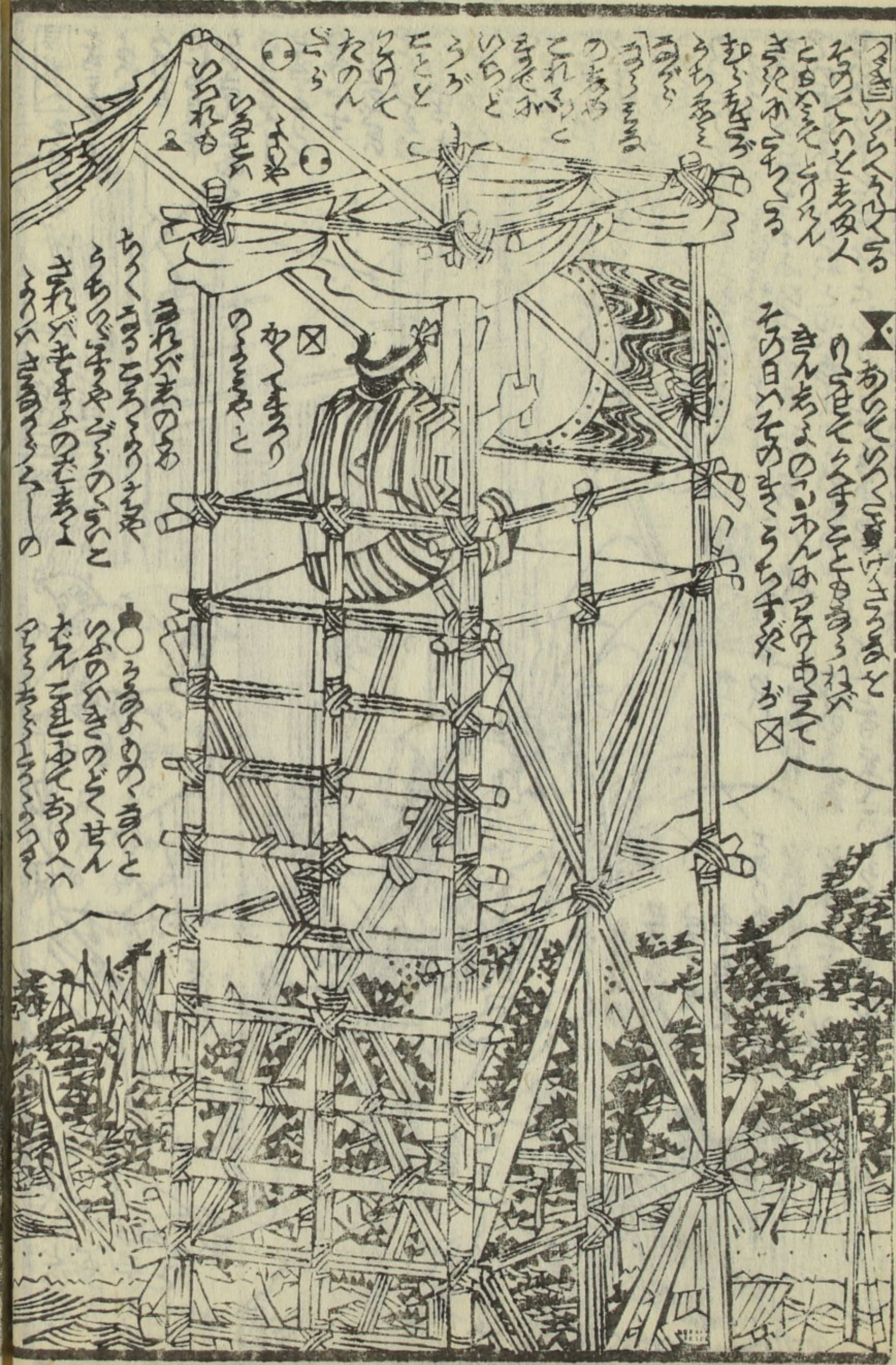


此物乃由西國所出  
 其味清香且能開胃  
 凡有病者服之立見  
 功效誠為補品中之  
 冠也

此物乃由西國所出  
 其味清香且能開胃  
 凡有病者服之立見  
 功效誠為補品中之  
 冠也

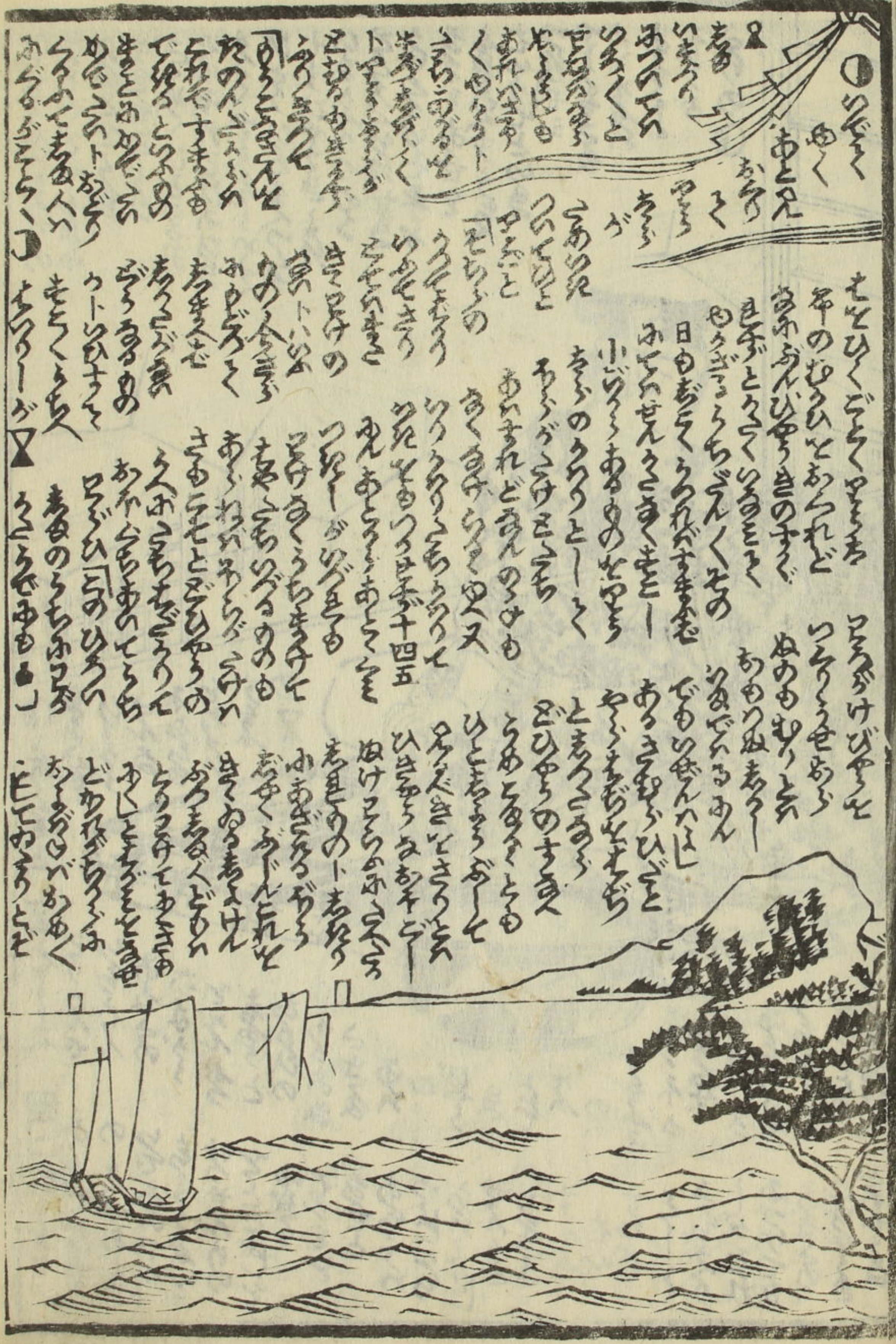


此物乃由西國所出  
 其味清香且能開胃  
 凡有病者服之立見  
 功效誠為補品中之  
 冠也



この塔は、五國奇譚の一場面を写したものである。塔の構造は、木製の骨組みで、上層には人物が座している。塔の周囲には、様々な木製の構造物や道具が描かれている。背景には、山や木々が描かれ、遠くには海や船の姿も見える。

この塔は、五國奇譚の一場面を写したものである。塔の構造は、木製の骨組みで、上層には人物が座している。塔の周囲には、様々な木製の構造物や道具が描かれている。背景には、山や木々が描かれ、遠くには海や船の姿も見える。



この風景は、五國奇譚の一場面を写したものである。前景には、波打つ海と、左側に帆船が描かれている。背景には、山や木々が描かれ、遠くには海や船の姿も見える。

五國奇譚十九

十六













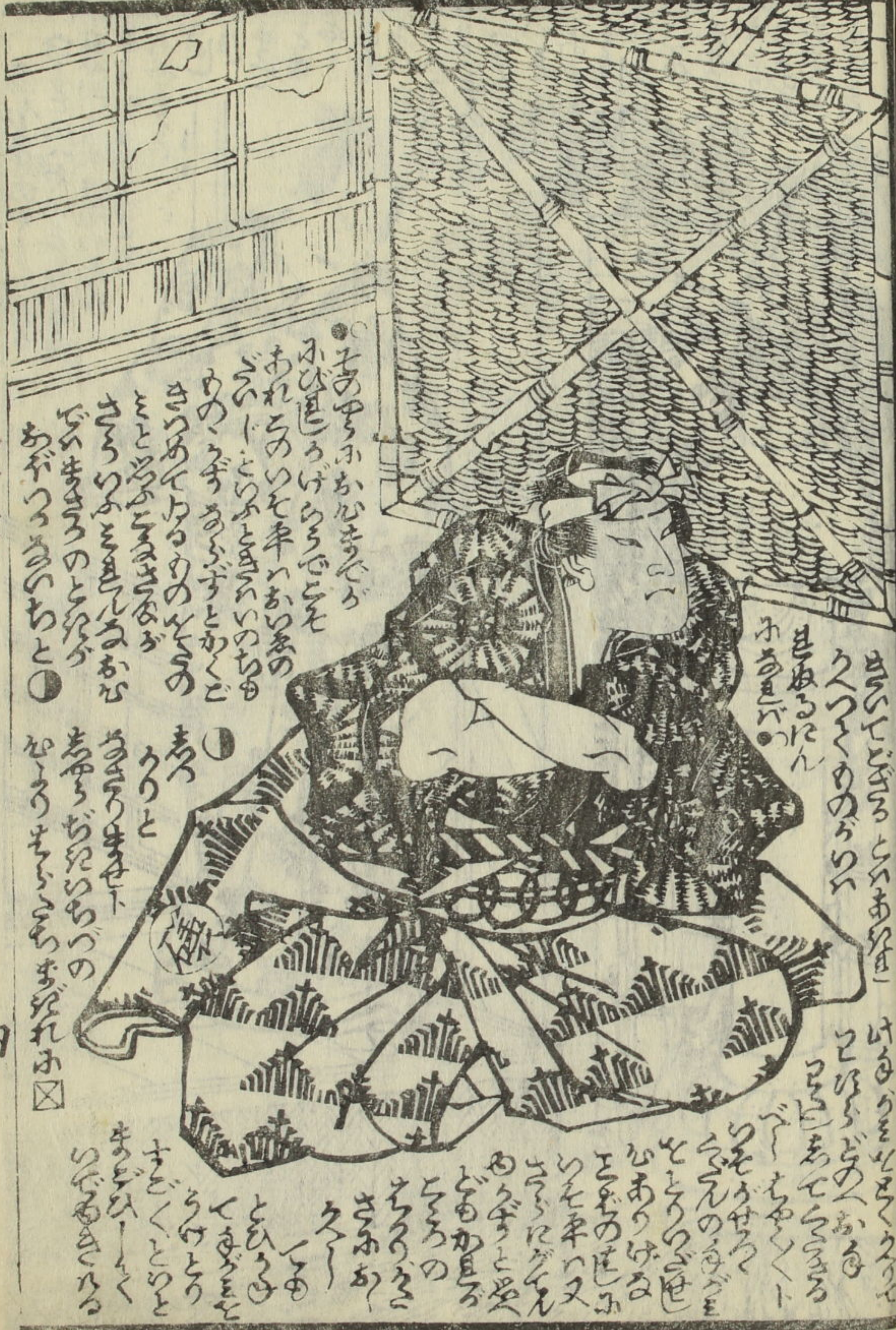
八重桐



赤松

妖齊

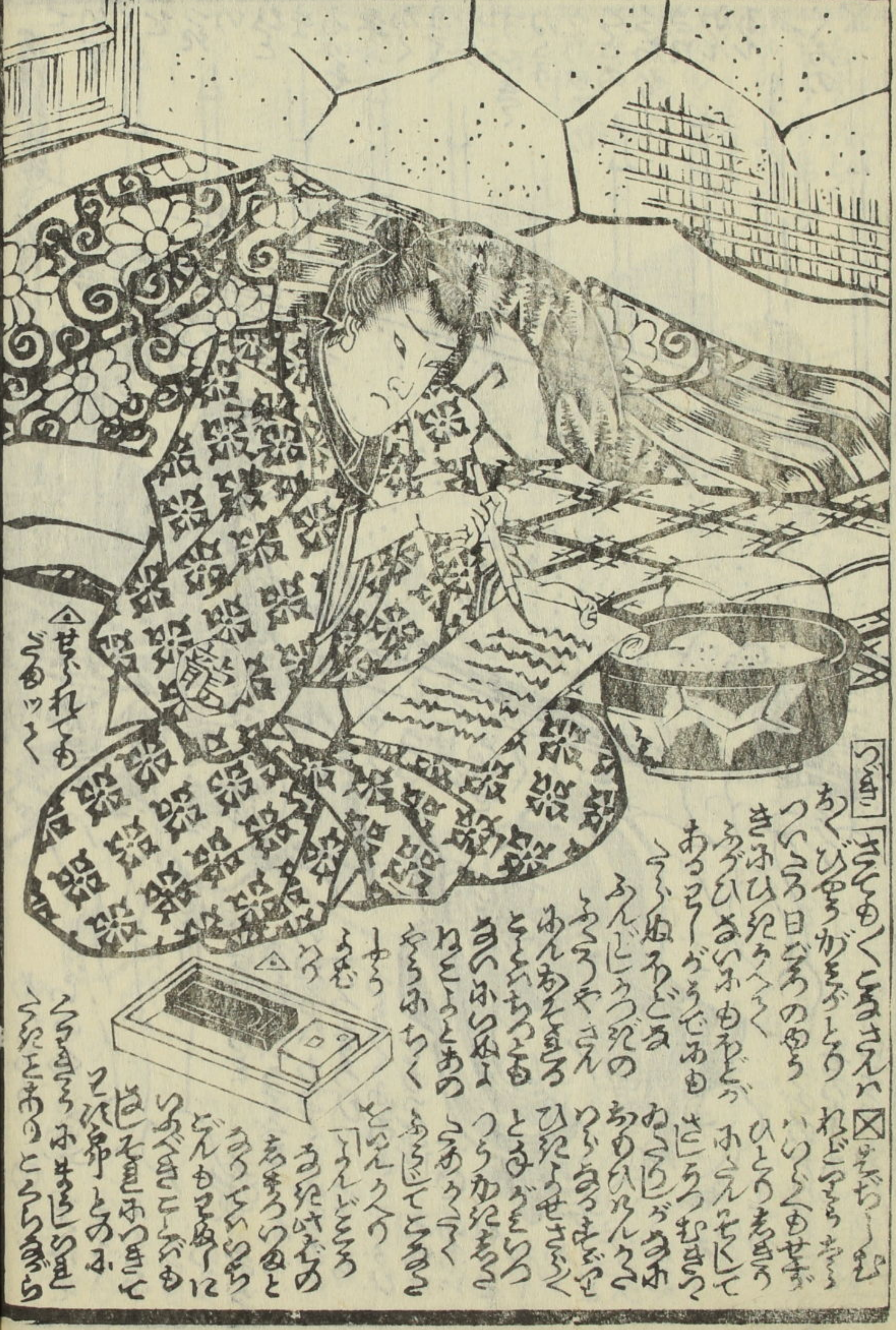




● その中へおなじまうか  
 おひはらうげらうごそ  
 あれらのいそ平のあらるの  
 るーとてふとあいのちも  
 めのうすあふとかくて  
 きいてあつわりのその  
 まとあつわりのその  
 うらまうのときか  
 あつわりのちと●

うつと  
 あつわりのちと●  
 あつわりのちと●  
 あつわりのちと●

● あつわりのちと●  
 あつわりのちと●  
 あつわりのちと●



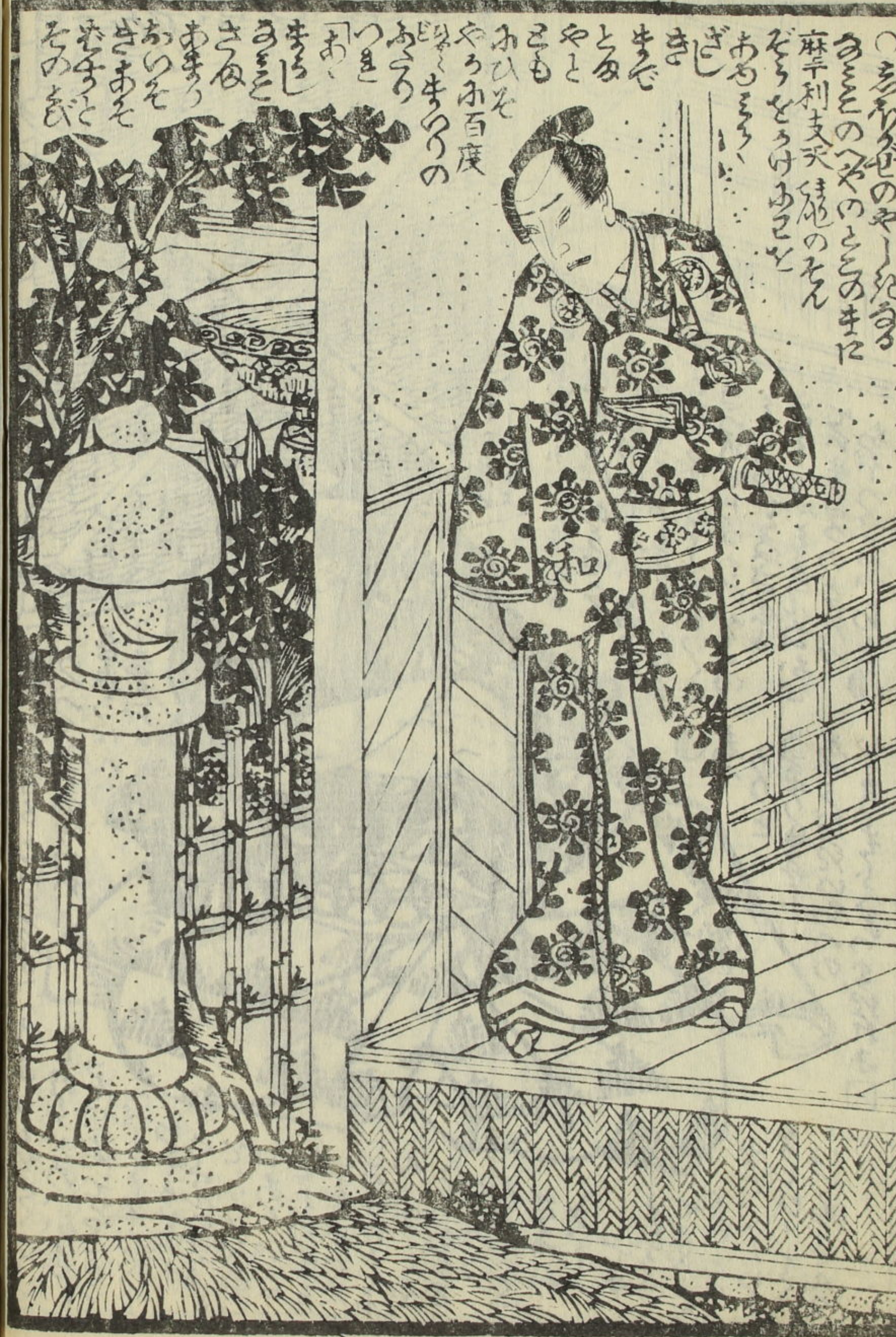
あつわりのちと●  
 あつわりのちと●  
 あつわりのちと●  
 あつわりのちと●  
 あつわりのちと●



あふが  
うのさ  
いぬめ  
そとむ  
そひ  
そひ

△ 七日のあふが  
あふが  
かへりてついで

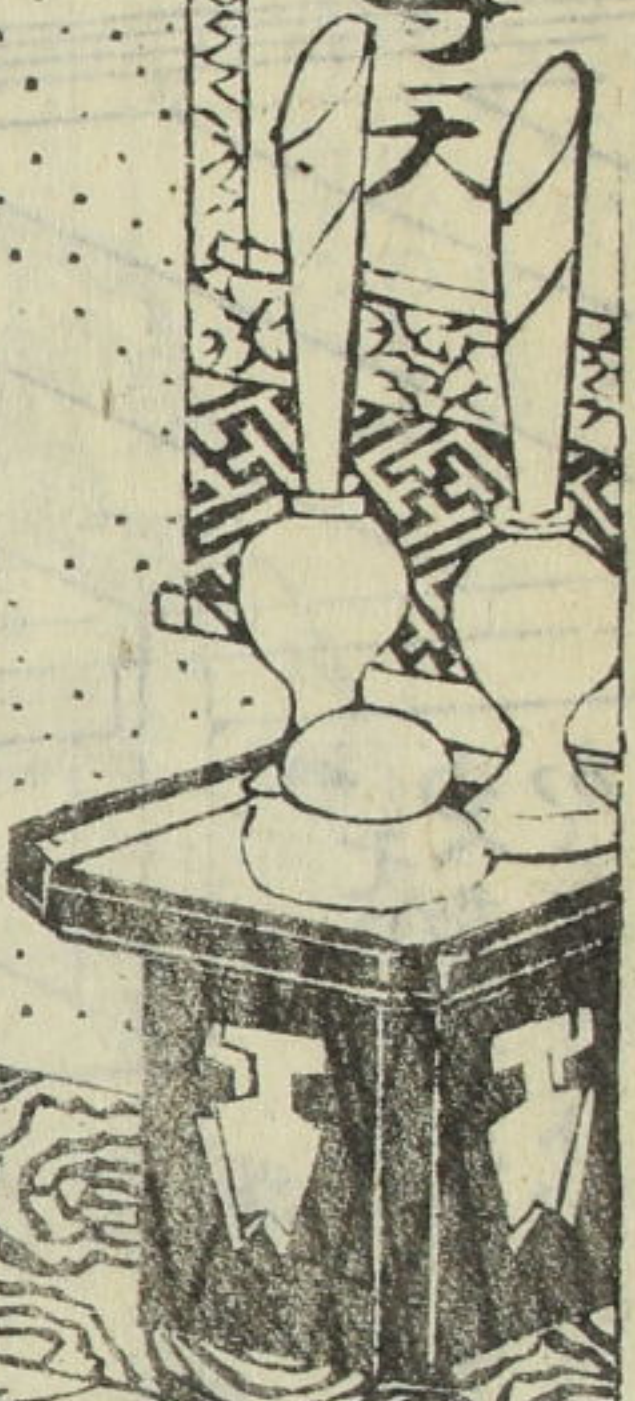
△ きくあへず  
あふがとあ  
かへりてついで



あふが  
うのさ  
いぬめ  
そとむ  
そひ  
そひ

△ 麻平利支天徳のそん  
ぞろぞろけいこ

支尊天



支尊天の御名は... 支尊天は...

支尊天の御名は... 支尊天は...

支尊天の御名は... 支尊天は...



支尊天の御名は... 支尊天は...



つぎせうやむあえと  
 せうのまをあらう  
 くねえあのせあき  
 またてふるてのあしが  
 るこいあまのひよと  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま

あまの  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま

あまの  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま

あまの  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま



あまの  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま

あまの  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま

あまの  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま

あまの  
 まのめいなりあまのこを  
 かつあひりまするあか  
 びつをさしのめつて  
 ひつをさしのめつて  
 ぬらぬらあひん  
 日のあまのあま  
 むあめを  
 とりのめん  
 うろつれを  
 かつてつれ  
 こめがあ  
 とあま  
 せあま  
 めあ  
 こま  
 うらま  
 こま  
 うらま  
 うらま  
 うらま  
 ねと日ころよりして  
 むあま









△とちのりてぬと  
つらまゝにあらん  
はちのりぬ  
△トウ

△とちのりてぬと  
つらまゝにあらん  
はちのりぬ  
△トウ



△とちのりてぬと  
つらまゝにあらん  
はちのりぬ  
△トウ

△とちのりてぬと  
つらまゝにあらん  
はちのりぬ  
△トウ









この九段の陣のちかどき  
 一ひとあめつゆあはれ  
 夜のあふまらぬまに  
 うちかききりしむす  
 さつとすしすのまゆ  
 ちかどき

甲斐  
 ひかひか  
 びかひか  
 びかひか  
 びかひか  
 びかひか  
 びかひか  
 びかひか

あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと

あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと

ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき  
 ちかどき

あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと

あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと

あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと

あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと  
 あつとあつと

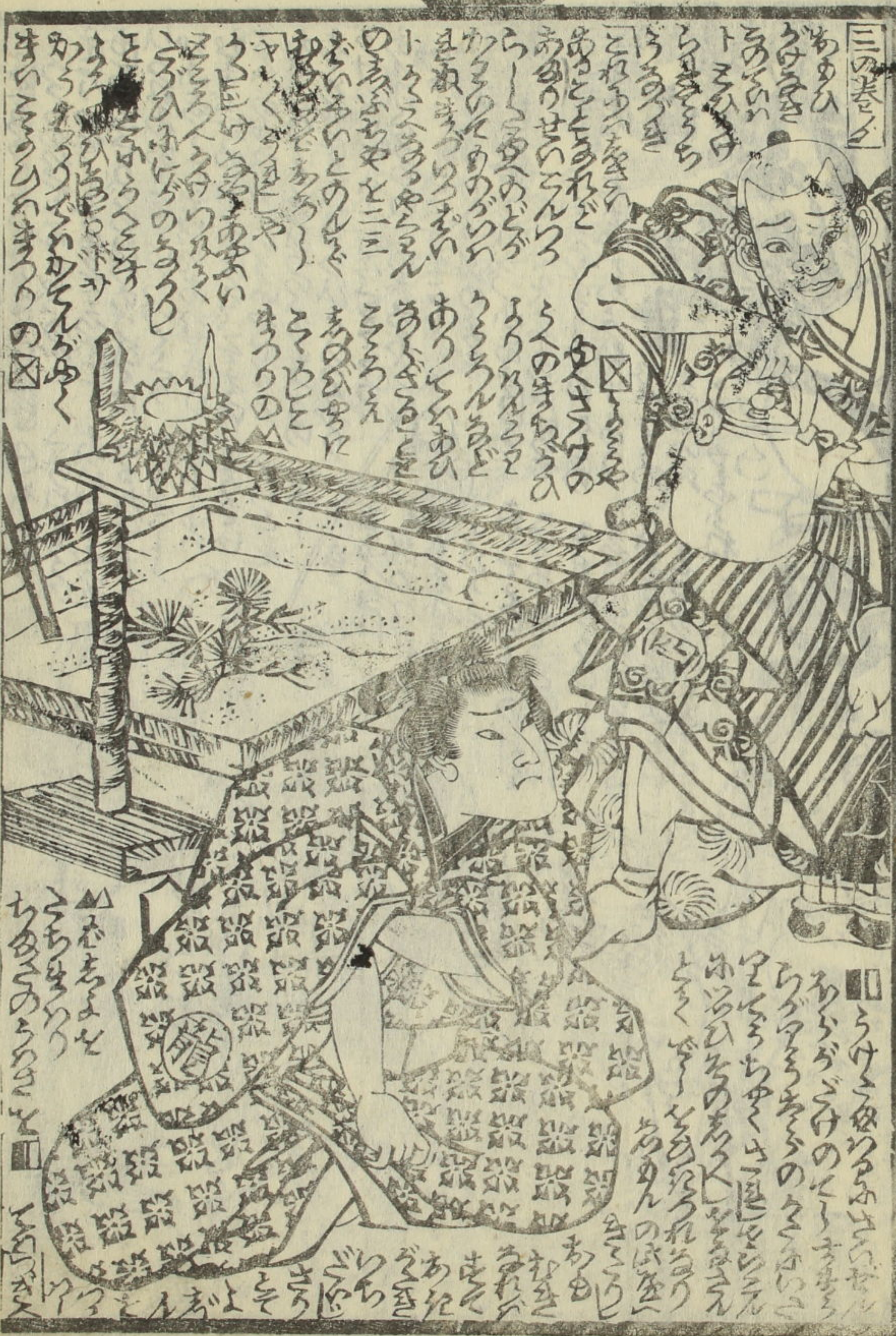




あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく

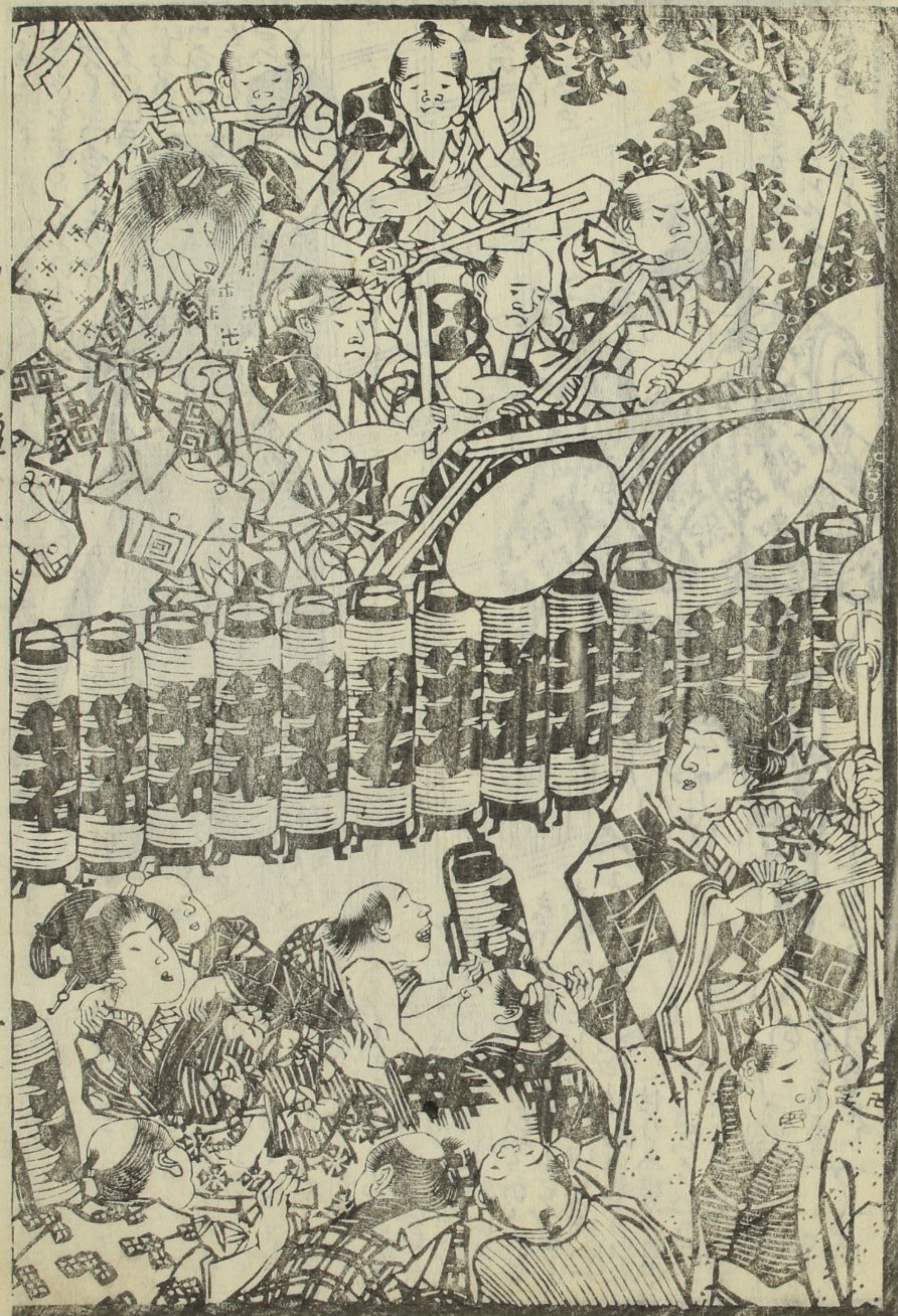
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく

四



あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく

あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく  
あつたのけんがひさしとひだなく

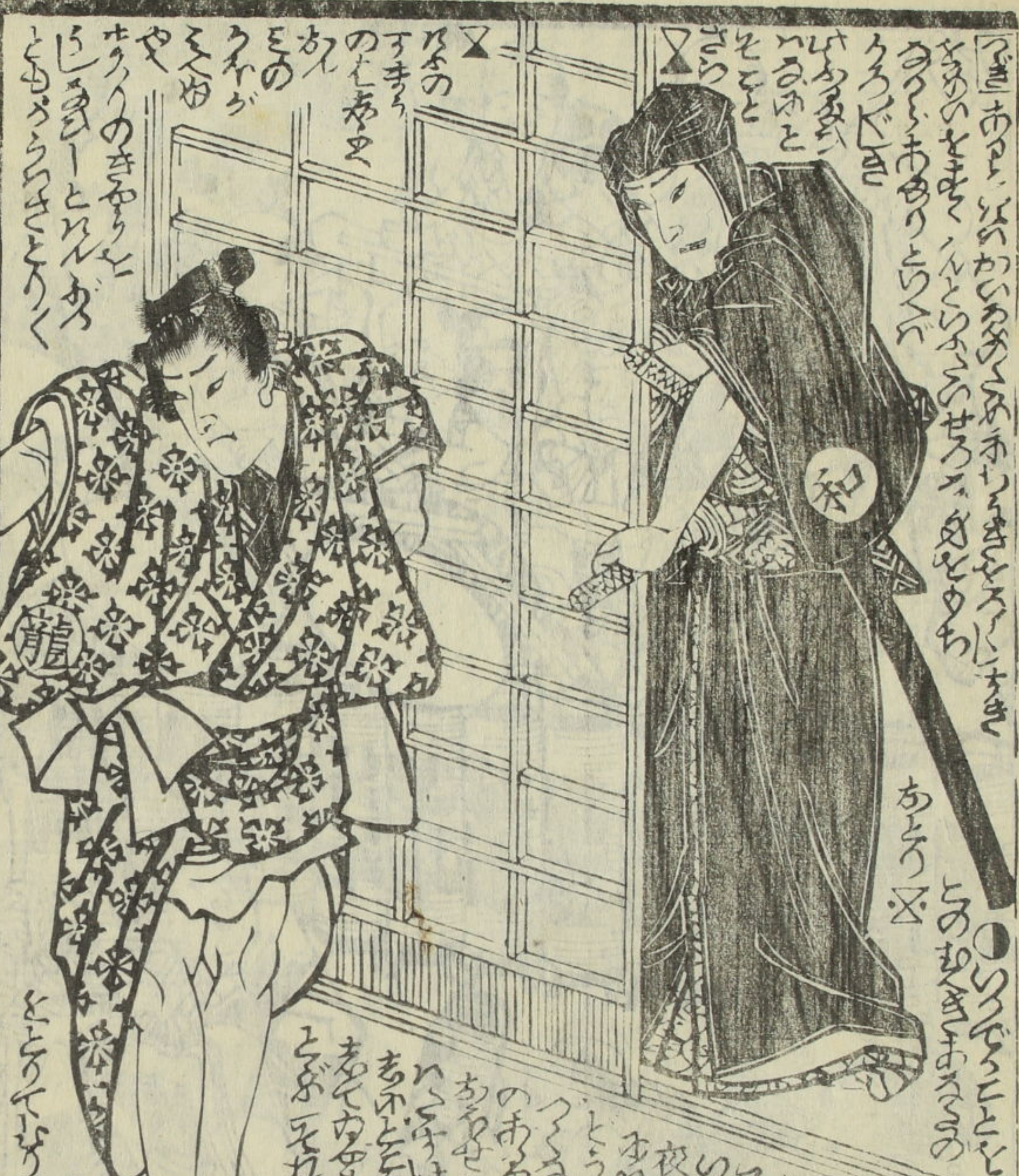


西園寺町二丁目



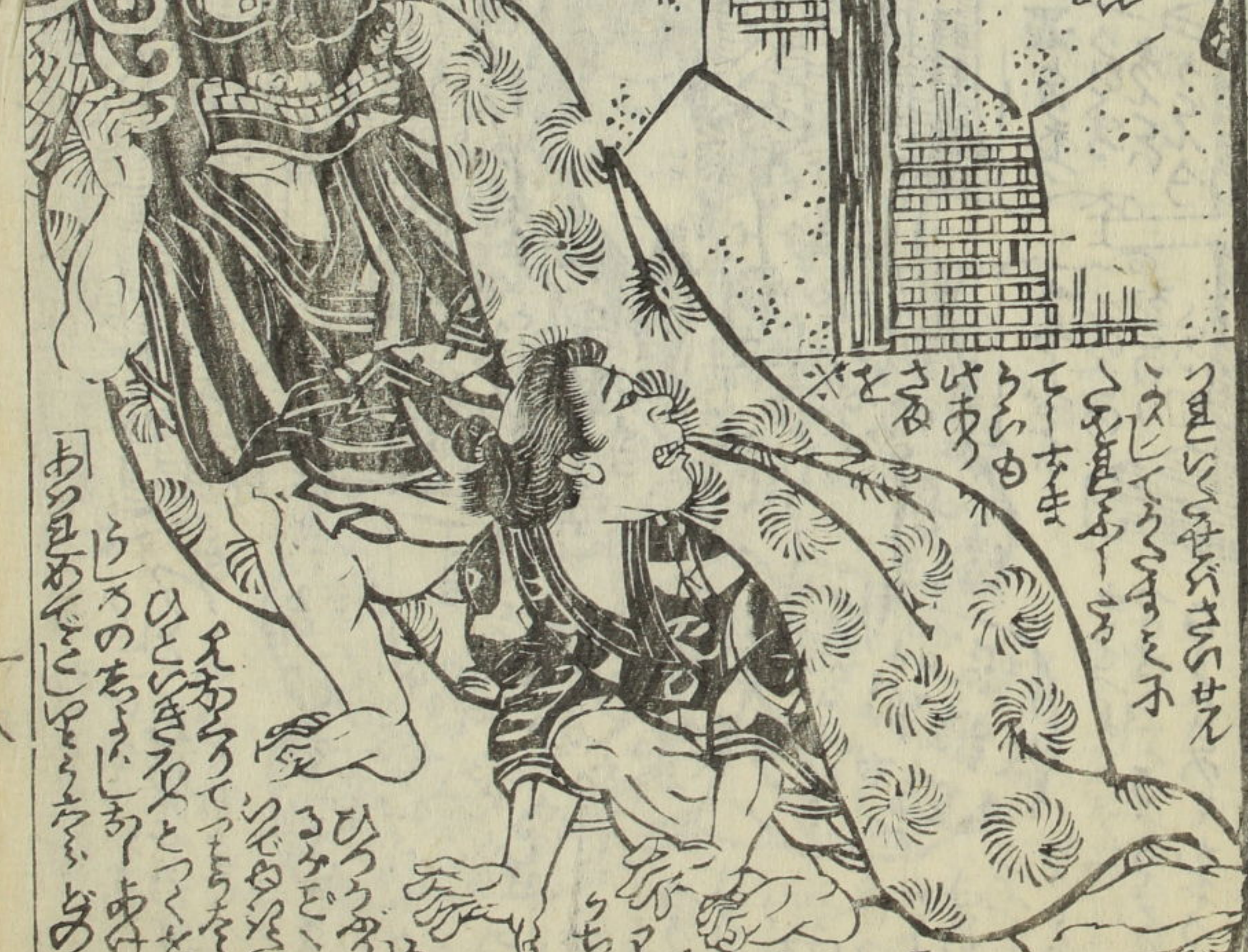
西園寺町二丁目





あつたつてはてはの  
たがひにあらざる  
とせむにねがふす  
のむにこそあつた  
あつたつてはてはの  
たがひにあらざる  
とせむにねがふす  
のむにこそあつた  
あつたつてはてはの  
たがひにあらざる  
とせむにねがふす  
のむにこそあつた

あつたつてはてはの  
たがひにあらざる  
とせむにねがふす  
のむにこそあつた  
あつたつてはてはの  
たがひにあらざる  
とせむにねがふす  
のむにこそあつた



あつたつてはてはの  
たがひにあらざる  
とせむにねがふす  
のむにこそあつた  
あつたつてはてはの  
たがひにあらざる  
とせむにねがふす  
のむにこそあつた

つき 歩らぬらんをふくむるす  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ



あひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ

あひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ



あひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ  
 ちかやうのひのらから入る下りあふ  
 あらうくくまきりあふとせ  
 きたるとえりてあひあけ





朝 牛肉丸 大色金朱 中色金朱 小色銀一々  
 鮮 一ひいと補ひえん  
 せいとまう物まされ  
 いたまあやの入る  
 羽ひく  
 谷まもん  
 漆寄氏製

春水作 芳虎画

春水作 芳虎画  
 春水作 芳虎画  
 春水作 芳虎画

# 新增補西國奇談

11編 為永春水作

# 薄緑娘白浪

9編 假名垣魯文作

# 隅田川月と梅若

5編 柳亭種彦作  
6編 山亭有人編次

# 繪本太閤記

3編 孟齋芳虎画作

地本問屋 西國廣小路 加賀屋吉兵衛板

